

南方大陸をめざして

—南極探検序章—

- ・古代ギリシャに未知の南方大陸が存在するだろうと考えられていた。
- ・大航海時代にマゼラン海峡の発見のほか、南極半島にも達していた。
- ・長期の航海では壊血病で多くの船員が亡くなった。ビタミンCが有効だとわかり克服した。

1.未知の南方大陸

アリストテレス(BC384-BC322)
北半球の大陸と均衡するように
南半球にも大陸が存在すると
考えた。

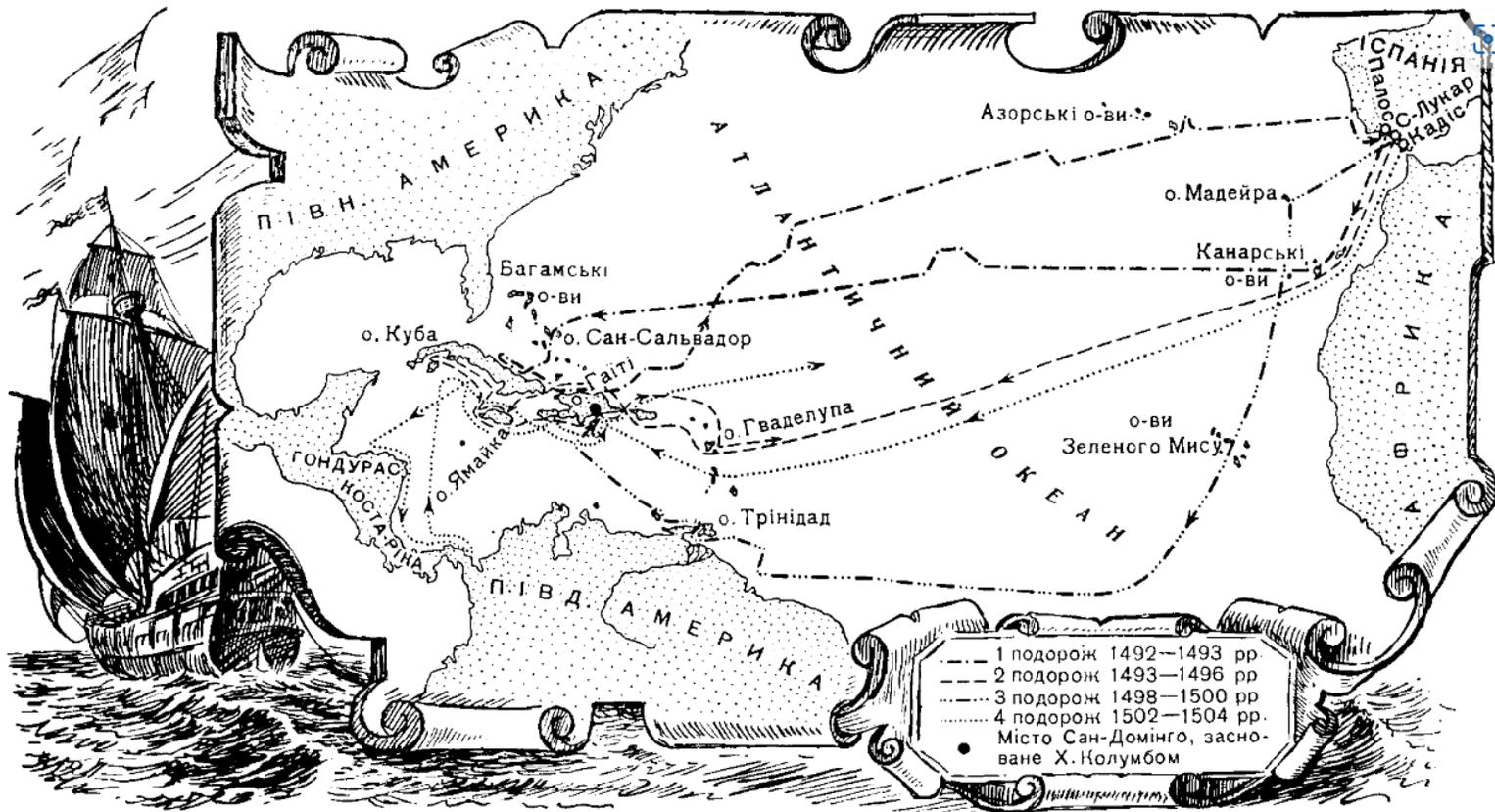
未知の大陸(テラ・オーストラリア・
インコグニタ)と名づけた。

プトレマイオス(83-168)

プトレマイオスの世界図では、
アフリカが南方に広がり未知の
南方大陸となっている。



2.大航海時代

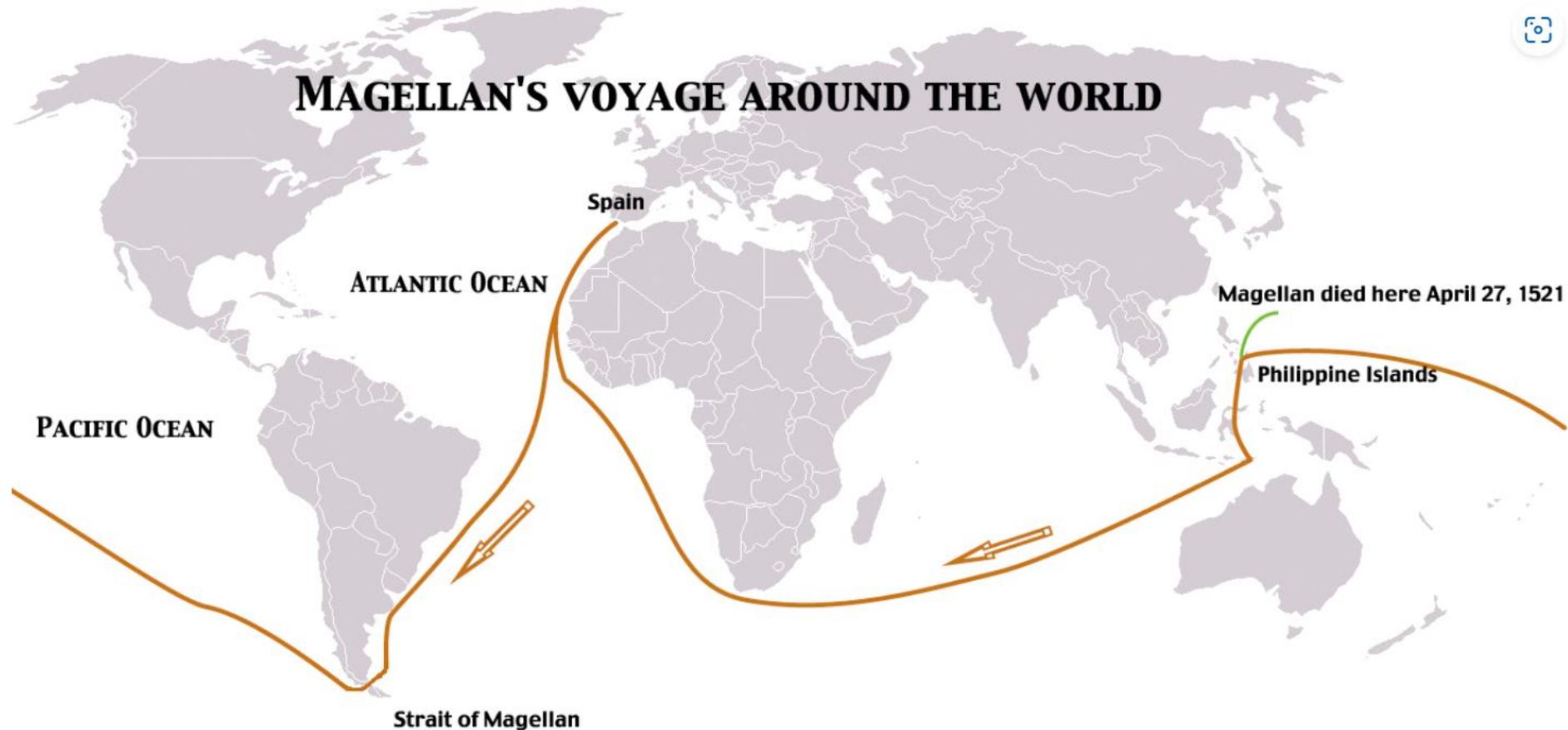


コロンブスの航海経路

ウィキペディアより

クリストファー・コロンブス
ジェノバ生まれ，ポルトガルで航海術を学ぶ。スペインの援助を受けて，1492年8月3日船出，72日目に今日の西インド諸島に着く。1493年の航海でプエルトリコに着く。その後の航海で1498年南アメリカ大陸，1502-1503年には今日のホンジュラスやニカラグアに達する。

フェルディナンド・マゼラン 1519年今日のマゼラン海峡を発見，その後，太平洋に出てフィリピンに至る。1521年4月27日マゼランは先住民に殺される。残った一行は1522年セビリアの港に着く。地球を一周，地球球形説が証明された。(下図 マゼランの航路, ウィキペディアより)



中国鄭和(ていわ)艦隊

- ・1402年, 明では永楽帝が皇帝となる。壮大な造船と航海を計画した。
- ・鄭和提督が海洋貿易を進める。7回の航海(1405-1433年)を行った。
- ・東南アジア, インド, セイロン島からアラビア半島, アフリカにまで航海した。
- ・船内でもやしを栽培し, 壊血病を防いだ。コメは精米せず脚気にはならなかった。持ち込んだ犬と桶で飼われたカエルを肉として食べた。



上: 鄭和像(泉州海外交通博物館)
下: 鄭和艦隊の航海路
ウィキペディアより

鄭和(ていわ)艦隊の行動はもっと広がった

メンジーズ, 松本訳(2003), 石沢(2020)から引用

第6回航海

- 1421年, 各国の使節を故国へ送り届けるため, 4船団が航海に出る。
- 1船団は使節を送り届けて帰国。残り3船団はさらに航海を続ける。
- アフリカ東岸に寄りながら南下し喜望峰を回った。



鄭和の旗艦「宝船」の模型
ウィキペディアより

南極半島のサウスシェトランド島に上陸

- ・その後、大西洋を北上し、カリブ海に至る。
- ・ここで、1船団は北アメリカに到達、2船団は南アメリカを南下する。
- ・マゼラン海峡を通り南極半島先端に達し、サウスシェトランド島に上陸。
- ・その後東に進み、オーストラリア西岸に達する。
- ・1423年10月22日、中国に帰還。

※これが事実なら歴史を大きく塗り替える。



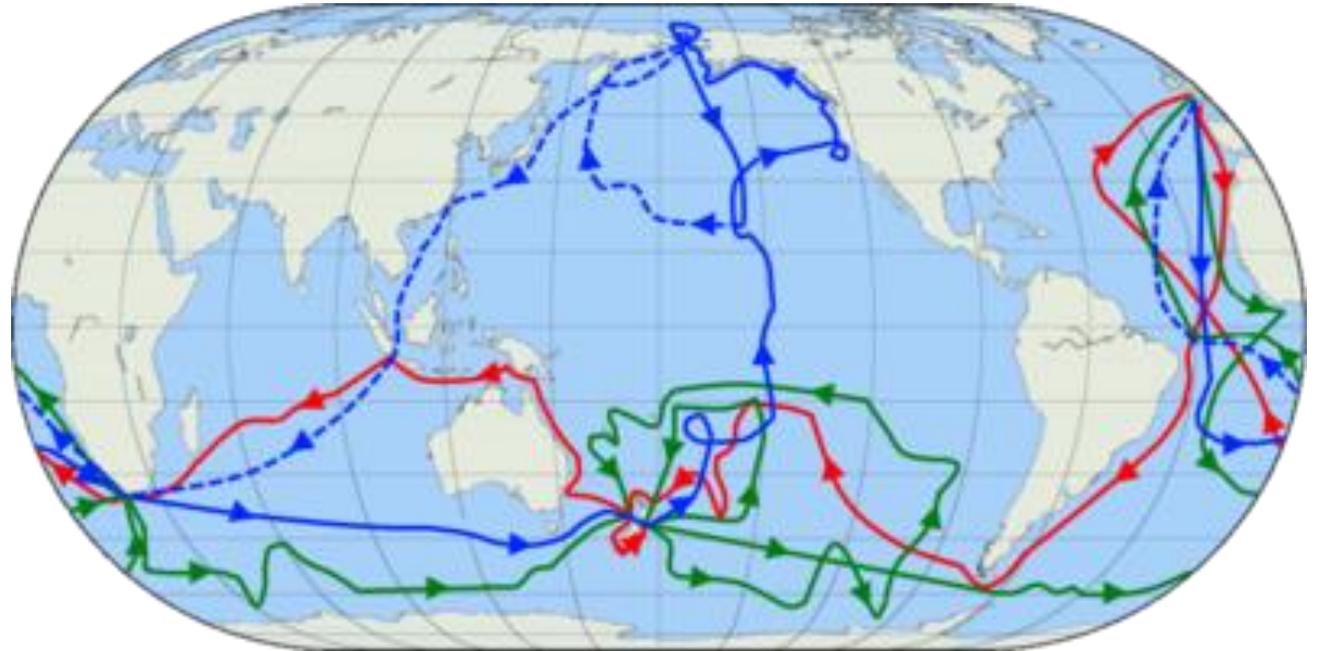
上:サウスシェトランド島の位置
下:サウスシェトランド島と南極半島
ウィキペディアより

18世紀，クックの航海

ジェームズ・クック James Cook 1728年10月27日-1779年2月14日

左 ジェームズ・クック像(海軍博物館)

右 赤は第1回航海，緑は第2回航海，青は第3回航海をあらわす。
青の点線はクック死後の航海ルートである。ウィキペディアより



第1回航海

1768年 王立協会と海軍が南太平洋に共同調査隊を派遣。目的は未知の南方大陸の発見，天体観測，抗壊血病剤テスト。

背景にはフランスが勢力をのぼし太平洋の小さな島々を自国領としていた。そこでそれを食い止めることを大きな目的であった。

エンデバー号

30m×9m, 94人が乗船した。

1769年6月3日 金星の太陽面通過を観測。

ニュージーランドとオーストラリアを經由。

ジャワ島バタビアにてマラリアと赤痢発生。38人死亡。

1771年6月イギリスに帰還。壊血病による死者はゼロ。

クックの第2回航海



1772年7月13日 プリスマを出港
レゾリューション号に90人乗船,
指揮はクック。

アドベンチャー号に69人乗船, 指
揮はトバイアス・フルノー。世界周
航の経験がある。

クロノメーターを携行し経度決定
を簡便にした。

**ケープタウン通過後, 1773年1月
17日南極圏を通過した。**

左図:レゾリューション号とアドベンチャー号
ウィキペディアより

ケルゲレン島付近で両船ははぐれ、3ヶ月後にニュージーランドで再開。

タヒチ出港後再び離れ離れ。

アドベンチャー号は水漏れひどく、帰国決断。途中寄った島でマオリ人に船員10人虐殺され食べられる。

1774年7月14日帰国。

レゾリューション号

1月末, $71^{\circ} 10' S$, $106^{\circ} 54' W$ に達する。

これ以上の南下はあきらめる。

ホーン岬を通過して1775年7月30日帰国。

113000kmの航海で死亡者は、4人。

右の写真 氷海の南極観測船「しらせ」



参考資料

- 関連動画

大航海時代 NHK 1分30秒

https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005403058_00000

南極半島ツアー記(クルーズライフ社のYouTube) 2分8秒

<https://www.youtube.com/watch?v=4axaCcgDcJU>